

# ファッション+αによる社会貢献

## 文化服装学院の学生たちの取り組み

### 2017年5月 コラボレーション始動！

コラボ始動の第一弾として、学校法人文化学園 文化服装学院(ファッション工科専門課程ファッション工科基礎科)で、子ども服の安全性に関する授業を実施しました。テーマは、【高視認性安全服/児童向け高視認性安全服規格】【子ども服のひもの安全性/ JIS L 4129】、【有害物質に対する安全性/エコテックス国際規格】の3項目でした。講師は、衣類の安全規格を熟知する同院の先生方、同じく規格を熟知している繊維製品の第三者評価機関である一般財団法人ニッセンケン品質評価センターのスタッフが務めました。



### 7月～10月 制作期間

各チームで製作(仮縫い、パターン作成、実物製作)に入りました。併せて、文化祭での展示準備も進めました。夏休みも惜しんで、高視認性安全服作りに取り組んだようです。

素材提供: 蛍生地/東レ株式会社

反射材/一般財団法人ニッセンケン品質評価センター

### 11月2日(木)～4日(土) 文化服装学院 文化祭で作品を展示

文化服装学院 文化祭で完成した作品を展示しました。“プロ”では思いつかない大胆なデザインに、来場者から「かわいい!」「自分の子どもに着せたい」などの声がたくさん聞こえてきました。また来場者による人気投票を実施し、2,206票も集まりました。なお、人気投票の上位15チームの作品が、最終審査会へ進みました。



### 2018年2月～4月 主婦会館プラザエフでの コラボレーション展示実施

今回の子ども・児童用の高視認性安全服を制作する取組みに、社会的意義を強く感じた主婦連合会がスペースを提供する形で、主婦会館プラザエフでのコラボレーション展示が実現しました。

「着用する服によって交通事故防止につながることを、広く一般に普及させることが重要」との認識で、立場が違う3者が一致しました。

2017年

5月

### 5月～6月 参加希望学生が企画案を作成

授業を踏まえ、高視認性安全服を制作するコラボレーション企画への参加希望学生の募集を行いました。学生が自主的にチームを組み、それぞれ企画案を検討・提出してもらいました。

6月

7月

### 7月4日(火) デザイン企画のプレゼンテーション実施

参加希望学生103名(29チーム)によるプレゼンテーションを実施しました。既成概念にとらわれない、蛍光生地・反射材使いの大胆なデザインが提案されました。「ファッションによる社会貢献」ということを真剣に考え、実践しようとする学生たちの姿が、これからのファッション業界の明るい未来を象徴しています。



8月

9月

10月

11月

### 11月29日(水) 最終審査会

15チーム参加による最終審査会を実施し、各チーム熱のこもったプレゼン合戦を繰り広げました。審査評価のポイントは「安全性」「ファッション性」「着たくなる・着せたくない」等の項目でした。当日は、本コラボレーションに強く興味を持たれた読売新聞、朝日新聞、東京新聞、繊維ニュース、信用情報に取材していただきました。



2018年

2月

3月

4月



グランプリの栄冠に輝いた「レインセクト」チームの4名。レイン(rain)コートを昆虫(insect)の羽に見立て、反射材・蛍光生地を使用しました。

	所 属	役 職・氏 名(敬称略)
消費者代表	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会	東日本支部 南條武支部長 標準化を考える会 田近秀子代表
交通安全分野	一般財団法人日本交通安全教育普及協会 一般財団法人日本高視認性安全服研究所	普及事業部 兼 企画部 加藤重樹部長 服部勝治理事・所長
メーカー	東レ 株式会社(生地提供)	機能製品事業部 東京ユニフォーム課 中原仁子氏
教育機関	学校法人文化学園 文化服装学院(主催者)	相原幸子学院長 野中慶子副学院長 ファッション工科専門課程 西平孝子グループ長
第三者評価機関	一般財団法人ニッセンケン品質評価センター(主催者)	駒田展大理事長